



## なが さき し し まい 長崎獅子舞 【豊島区】長崎獅子連

漆黒の地鳥の羽を背に負った木彫りの獅子頭をかぶり、腹に太鼓をつけた三頭の獅子が、太鼓を打ち鳴らしながら舞う長崎獅子舞は、元禄年間(1688年～1703年)から伝承される豊島区の民俗芸能です。旧長崎村の人々は村の鎮守である現在の長崎神社に集い、五穀豊穰、悪疫災厄退散、病気平癒を祈って獅子舞を演じました。現在も、毎年5月第2日曜日に長崎神社の祭礼で演じられており、大都会で伝承する獅子舞として貴重な存在です。平成4年に区の無形民俗文化財に指定されました。



## ふ じ じ ゃ ば や し こ ぶ き じ し 富士元囃子・寿獅子 【豊島区】富士元囃子連中

明治30年代に豊島区高松の長崎富士塚(国指定重要有形民俗文化財)の講元を中心として発生した富士元囃子は東京の祭囃子の特徴である五人囃子の形態をとり、神田流大間囃子に属します。かつて長崎地域が農村であった頃の、のどかな笛の音と、締め太鼓の小気味よいテンポを聞かせる曲調が特徴です。附随芸として「寿獅子」「大黒舞」「おかめ・ひょっこ」などがあります。毎年長崎神社の秋の大祭では、地元要町高松の各町内を練り歩き、祭りを盛り上げます。平成14年に区の無形民俗文化財に指定されました。



## ぞう し が や き し も じ ん お え し き ま ん だ ん ね り く よ 雑司ヶ谷鬼子母神御会式万灯練供養

【豊島区】雑司ヶ谷鬼子母神御会式連合会

御会式とは、本来は日蓮宗の祖日蓮の供養のためにその命日に行われるものですが、雑司ヶ谷では江戸時代から鬼子母神堂の祭として開催され、毎年10月16日～18日に雑司ヶ谷を中心とする20以上の講社が、団扇太鼓などをたたきながら纏や万灯とともに練り歩き、鬼子母神堂へ参詣します。各講社が丹精込めて作り上げた枝垂れ桜様の万灯が何台も練り歩くその様は、幻想的な秋の風物詩として親しまれ、今も地域全体の人々が待ちわびる大祭です。平成27年に区の無形民俗文化財に指定されました。



## ち ち ぶ や たい ば や し 秩父屋台囃子 【埼玉県秩父市】高野右吉と秩父社中

毎年12月2日～3日に行われる秩父夜祭で曳きまわされる山車の下層部に演奏されるのが秩父屋台囃子です。舟底のような狭い空間に奏者が20人以上も詰め込まれ、締め太鼓と大太鼓を打ち分けて、山車を自在に操るように打ち鳴らします。重さ20トンもある屋台山車の曳き手の呼吸をそろえ、力づける大切な役目を担います。昭和54年に「秩父祭の屋台行事と神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されました。平成28年には、「秩父祭の屋台行事と神楽」を含む「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。



## い わ み か ぐ ら 石見神楽 【島根県】石見神楽東京社中

石見神楽は、島根県西部石見地方において代表的な郷土芸能です。舞は儀式神楽と古事記、日本書記等の日本神話や物語を題材にした儀式外神楽に大別されます。衣装は金糸銀糸を用いた絢爛な刺繍をほどこし、石州和紙の張子の神楽面を着け、幣・扇・刀等といった採物を手にし、口上を交えながら舞います。奏楽は大太鼓、小太鼓、手拍子(鉦)、横笛で構成され、中でも八調子と称される舞はテンポが速くダイナミックです。本来は、神事として神社で夜明けまで奉納されていましたが、現在ではイベントや定期上演など年間を通して観覧できる機会が多くなっています。



あうるすぽっと 豊島区立 舞台芸術交流センター  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル2F

- 交通案内
- ・東京メトロ有楽町線「東池袋駅」6・7番出口より直結
  - ・JR他「池袋駅」東口よりグリーン大通り直進 徒歩10分
  - ・都電荒川線「東池袋四丁目」より徒歩2分

第30回  
未来に受け継ぐわたしたちの芸能

### ◎観覧申込方法



#### 往復はがき

郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・電話番号、宛名面に返信用宛先を明記の上、下記までお申込ください。

※1通につき1名様でお申込みください。1名様1通限り有効です。

#### 送付先

〒171-0022 豊島区南池袋2-34-5  
藤和第2ビル2階  
としま未来文化財団 民俗芸能係

#### インターネット

<https://www.toshima-mirai.or.jp>

※9/10以降、先着順に入場券(インターネット申込の方はメール)を送送いたします。

定員300名に達し次第締め切ります。

※はがきに記載された個人情報は、本公演にのみ使用し厳正に取扱います。